

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202189		
法人名	有限会社 いこい		
事業所名	グループホーム 彩葉(いろは)2階		
所在地	〒858-0907 長崎県佐世保市棚方町424-272		
自己評価作成日	平成22年2月20日	評価結果市町村受理日	平成22年4月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年3月24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少人数での共同生活を営みながら、その人がその人らしく生活して頂けるように支援いたします。また、住み慣れた環境の中で、地域の方々と交流の機会を持ち、地域の行事等に参加します。日々の生活の中では、買い物や調理、洗濯等生活に必要な家事をスタッフと一緒にいき、自立に向けての支援をいたします。その他、趣味やレクリエーション、四季折々の行事を予定し、活気ある暮らしを提供いたします。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街に向かう坂の途中にホームがあり、お隣さんと言えるお宅は1軒だが、その坂を少し上ると、普段、付き合いをしている住宅街がある。その住宅街も高齢者が多く“万が一の時に協力していただける地域の方を”と、現在地域交流の場を広めるよう努められている。また、少々離れたところにも介護教室に出かけ地域の方の在宅介護の悩みの相談に乗るなどされている。また、避難救出訓練の中でホームの課題を知る事ができたが、ホームの立地条件などの問題もあり解決策が見つからないとの話しの中で“病院にはらせん状のシューターがある”等の話を調査員がしたところ、代表が調査終了前にはネットで取り扱い業者を調べ見積もりを出してもらおうという素早い対応を取られ、入居者優先の姿勢が窺える。その考えを受け止めている管理者も、職員に対し“疑問は疑問のまま残さない”“疑問が少ないという事は、入居者を見ていない証拠”と、仕事優先ではなく入居者優先で仕事をする姿勢を示しながら職員の育成を図られており、今後も期待したい事業所である。

## サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員全員で確認し、地域と密着した中でのサービス提供を行っている。	ホームの理念に則り、代表をはじめとする全職員が、入居者が元気を出すような工夫をし、また、入居者・家族・職員が、時には地域の方も加わり、喜怒哀楽を共に味わい、地域の一員として生活できるよう支援している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事時には積極的に参加し、また、ホームの行事時は案内状を配布したり、掲示板を利用し、地域の方々とのふれあう機会を持っている。	ホームの彩葉祭に、フラダンスや二胡バンドのボランティアが来られ、地域住民も年々多数の方が参加されるようになった。餅つき用の薪や花・野菜のお福分けを頂いたり、通りがかりの方が「介護の事でちょっと聞きたい事がある」と寄せられた事もある。何もなくても「茶飲み友達」のように遊びに来られる方もいるなど、地域に密着したホームとなっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々には認知症の状態であっても住み慣れた地域で生活を営む事の大切さを理解していただけるよう交流や行事参加を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所内での取り組みや行事について地域の方やご家族からの意見をお聞きし、積極的に取り入れながらサービスの向上に取り組んでいる。	万が一を想定した救出訓練で確認できたホームの構造上の課題に対する意見を求め、ホーム側からの提案について話し合ったり、ホーム行事・地域行事に関して、要望や提案などを出し話し合うなど、ホームの質の向上や地域との付き合いを深める会議となっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新等の際、入居者の生活上での相談や報告を行ったり、事業所の状況や取組等の相談や報告を行い連携に努めている。	施設長が、困難事例の相談や法令等の問合せを市の長寿社会課へ電話したり出向くなどしている。また、市から入居の問合せや研修案内等がある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は、当所の立地条件や入居者の状態や地域、ご家族からの意見も含めて施錠しているが、今後は開錠も検討する。日常生活においては、入居者の安全面に配慮しながら、自由に生活していただけるよう支援している。	代表を始めとする職員は、玄関の施錠を解除したいと考えているが、地域の方や家族から強い要望があり解除できていない。また、職員の身体拘束に対する理解度も習熟度などで異なっており、職員の理解を深め意識の統一を図りたいと管理者は考えられている。	管理者が、H22年度に開催される身体拘束に関する研修に参加し、職員に伝達講習を行なう予定であるとのこと。職員の理解・意識の統一を図ると共に、玄関の開錠に向けた対策を講じることに期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で職員が入居者の状況把握を行い、ケアによっての影響等を確認しながら職員全体で認識し、入居者主体を心がけ虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性があると思われる入居者に関して、施設長、管理者が対応しており、職員全体での理解が不十分である。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとり十分な説明を行い、疑問点が無いか確認を行いながら同意を得るようにしている。同時に当事業所のケア方針や看取りに関する方針の説明も行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時には出来るだけ時間を作り、意見や要望などをお聞きして業務の改善や、介護サービスの向上に努めている。	家族の来訪時には、管理者や職員が話を聞き“何かないか”を常に尋ねている。また、毎月のホーム便りもユニット・ホーム全体と個々人の部分を分けて記載し、小さな事でも意見等が出るような工夫を行っている。今年度は、利用料金の加算についての質問が多く、個別に説明を行うなどの対策を取った。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議を行い意見交換を行っている。また、日常的な報告などもすぐに連絡が出来るようにしている。	職員に意見等がある場合には、管理者や主任に随時申し出られるように体制を取っており、必要に応じてユニット会議で話し合うなどしている。職員の“入居者の状態に応じてシフト体制を変えたほうが良い”など、職員の意見を大事にし運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員が向上心を持って働けるように研修会の参加や資格取得の支援を行っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修を受ける機会を確保し、働きながら技術や知識習得できるよう工夫をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会等の勉強会や親睦会等で交流や連携の機会を持ち、意見交換等を行いながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前には事前訪問やホームに来ていただき、心身の状態や本人の要望、不安などもお聞きしながら関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前には事前訪問やホームに来ていただき、ご家族の要望や不安をお聞きし、相手の立場に立ち、ご家族の御苦労やの思いを理解するよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や御家族が置かれている状況を把握し、必要に応じて他サービスの利用の調整も行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と喜怒哀楽を共にし、本人の持つ個性や力を引き出し、共に支えあえる関係を目指している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と情報を共有し、ご家族の思いを受け止めながら、一緒に本人を支えていく関係を築きながら支援に繋げている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との関係を把握し、その関係を断ち切らないよう支援に努めている。	以前から行きつけであった美容室や洋品店を継続して利用していただいている。また、地元の民生委員の方が敬老の日の紅白饅頭を持って来られたり、友人が尋ねられたり、家族には些細な事でも来訪して頂いたり、家族は勿論の事、友人や地域の方との関係が希薄にならないように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を全職員が把握し、また情報を共有し、共に暮らしを楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談に応じ、これまでの暮らしが継続出来るように支援している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の希望や思いを大切に、思いをうまく表現出来ない方でも本人の視点に立って思いを汲み取るように努めている。	その場の状況に応じて、入居者に敢えて尋ねたり、ご入居者同士の話しに耳を傾けたり、時には、入浴介助を行っている時や夜勤の時などに、入居者から話しに来られることもある。はっきり言われない方や居室に閉じ籠りがちの方は把握が難しいが、家族に本人宛の手紙を書いて頂くなどしながら、思いの把握に努めている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながらこれまでの生活歴を本人やご家族からお聞きし、入居後も暮らしぶりに大きな変化がないよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、日常生活の中で本人の持っている力、出来る事に着目し、本人の持っている可能性を見出すよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の意向をお聞きし、主治医との相談も行いながら定期的なモニタリング、カンファレンスを職員全員で行い介護計画に反映している。	毎月モニタリングを行い、カンファレンスの中で職員の意見を聞き、本人・家族やかかりつけ医にも尋ねプランを作成している。片方のユニットでは、本人の言動までモニタリングし、本人の思いが極力叶うようなプランの作成に努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルにて身体状況や日常生活での出来事や職員の対応等記録し、日々の実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに沿って往診、通院、訪問理容等、ご家族との外出などその時々に必要な支援を出来る限り行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人と地域との様々な接点を見出し、必要に応じてボランティアや他施設との交流を行っている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望するかかりつけ医への受診を支援し、必要に応じて、電話での相談や往診等かかりつけ医との連携に努めている。	協力医療機関の医師が往診して下さる事や認知症の専門医も居られる事から、家族の希望によりかかりつけ医を変更された方が多い。整形外科や泌尿器科などの専門科は、本人・家族が希望して受診されている。また、受診後の報告もなされ情報の共有も計れている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護による日常の健康管理を行い、情報の共有や連携に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族の了承を得て本人に関する情報提供を行い、入院中も面会に行く等し医療機関とも連絡を取りながら、早期退院に向けての支援を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期の指針の説明を行っている。また重度化した場合、早い段階で本人、ご家族の意向を踏まえて医師、職員と連携を取りながら支援に取り組んでいる。	重度化や看取りに関する指針を作成し、入居時に族へ説明した上で意向を確認しており、重度化した場合または看取りに入る状態になった時点で意向の再確認を行っている。見取りになった場合は、協力医療機関の医師の協力の下、家族・職員も共に、入居者を最期まで“ご本人らしい”生活の維持に努めている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや職員連絡網にて手順の確認や職員間の連携が取れるよう話し合いを行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により定期的な避難訓練、避難経路の確認等を行っている。また地域の方にも訓練への協力をお願いしている。	年2回の避難訓練を行ない、避難経路の問題点などを運営推進会議にかけて意見を求め、ホームからも提案をし打開策を模索中である。また、運営推進会議の場で、地域住民への協力依頼もを行っている。	2階の入居者の避難経路の確保と安全かつ機敏な避難誘導が出来るような訓練の方法を工夫するなどの取組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねないような声掛けや対応を行っている。また、介護記録の管理は職員が行っている。	個人で決めた量の晩酌をされる方、居室で1人静かにラジオ等を聴くのが好きな方など、その方の思いを尊重し支援している。また、入浴は入居者全員見守りが必要となっているが、羞恥心が強い方は下着を着けた事を確認してからドアを開けるなど、プライバシーにも充分配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意志や思いがうまく表せない入居者でも日々の生活の会話や表情から本人の希望や考えを引き出せる対応を心がけ、自己決定出来るよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のリズムや体調に配慮しながら本人の希望される外出等の支援を行い、その人らしく生活出来るよう取り組んでいる。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの希望をお聞きし服装や髪形を選んで頂いている。支援が必要な方はその日の体調や気温を考慮し職員と一緒に選んでいる。希望者には訪問理容や馴染みの理容室への支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に買い物に出かけたり、配膳、片づけを行っている。また、本人の嗜好や希望に添った、食事、おやつや飲み物等を楽しめるよう努めている。	片方のユニットの朝食は、入居者の希望でパンご飯、飲み物を選べるようになっている。メニューは、職員が決めている事が多いが、入居者と買出しに行った際に決めたり、食べたいメニューを外食したりする事もある。また、入居者も職員と一緒に下ごしらえや下膳などを行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の体調を把握し、食事、水分摂取量を記録している。食事形態もそれぞれに合った工夫をしている。食が進まない場合は食事時間を変えたり、嗜好品の提供を行い工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、支援が必要な方は一人一人に合わせた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーに配慮し、一人一人の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄へ向けた支援を行っている。	排泄パターンを把握してのトイレ誘導や、パターン把握が困難な方は2時間おきに誘導する事で、トイレでの排泄を支援している。夜間も、トイレ誘導することで睡眠が妨げられる方を除いては、トイレ又はポータブルトイレにての排泄を支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の食事量や水分量、排泄パターンを把握し、日中活動量や水分量を増やす等して工夫している。また、排泄時間を記録しトイレ誘導も行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調を確認しながら一人一人の希望に合わせて無理強いせず入浴や清拭を行っている。湯の温度もなるべく希望に合わせて必要に応じた支援を行っている。	現在、午前中に入浴であるが、入る順番や午後の入浴など希望に沿って柔軟な対応を行っている。入浴を嫌がる方は、スムーズに入浴されるパターンを把握し、声掛けする職員を選んだりタイミングを見計らうなどする事で、嫌がることなく入浴して頂いている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを大切に、その日の体調に合わせて日中活動を増やしたり、日中の休息も取れるよう努めている。希望者には加湿器を使用したり、入眠前にお茶の提供をし工夫している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全入居者の薬の内容をファイルに保管し、職員がすぐ見れるようにしている。処方の変更があった場合は職員伝達帳にて周知徹底し、状態変化の観察に努め記録に残している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望に添えるように外出や買い物の支援、日々の生活の中で役割を持っていたり、その人が持っている力を引き出し、喜びや楽しみにつながるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ本人の希望に添えるようご家族に協力を仰ぎながら、外出、買い物、散歩等支援を行っている。	季節や体調を見ながら、ユニットごとやホーム全体で花見やドライブ、寿司ツアーや家族も参加される敬老会の食事会等に出かけている。また、毎週レンタルビデオを借りる方や墓参り、食事や買物など、個別の希望時やホームの買物時に声を掛けるなどして、戸外に出る機会が増えるよう努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に合わせて自分でお金を管理したり、支払いをして頂いている。また、職員と買い物に行きお金を支払う機会を作っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて電話や手紙のやり取りなど出来るように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が作成したパズルや季節の花を飾り、季節感や生活感を採り入れて居心地良く生活できるよう工夫している。	入居者が集まるホールは、白い壁と窓からの採光で明るく開放感があり、入居者の作品や季節のものを飾りながら、家庭的な雰囲気を作っている。窓際には最近入ったという高齢者専用のパチンコ台が1台設置され、男女問わず楽しんでた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや畳を設置し、思い思いにくつろげるよう工夫している。また玄関前に椅子を置き、外でもくつろげるよう工夫している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた生活用品や衣類、写真等持ち込んで頂き、自分らしく過ごせるようにしている。	家族に“新しく購入するのではなく、本人が使い慣れた品やお気に入りの品”を持ってきて頂くよう依頼し、自宅で使用されていたタンスやテレビを置き、家族との写真や本人作のジグソーパズル等を飾るなどして、本人が安心して過ごせるような居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の心身機能の状態に合わせて住環境が適しているかの見直しを行い、安全確保と自立に向けての工夫をしている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202189		
法人名	有限会社 いこい		
事業所名	グループホーム 彩葉(いろは)1階		
所在地	長崎県佐世保市棚方町424-272		
自己評価作成日	平成22年2月17日	評価結果市町村受理日	平成22年4月14日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+ ) + (Enter+ )です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「毎日楽しく、元気よく、地域の方々と共に喜びを」との理念を掲げ、職員は、利用者様が地域で快適に生活できるよう支援に取り組んでいる。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域、当所におけるの行事にお互いに参加し交流を行っている。また、日常的に地域住民の来訪を受け入れ、時々遊びに訪れる方もおり、親しみのある地域関係が出来ている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室の実施や、人材育成の貢献としての実習生の受け入れを行っている。また、地域の方々の相談を受け入れる取り組みを行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、要望や相談事等の勘案事項を報告しあい、また、職員会議などでも取り上げて話し合いを行いながら、利用者へのサービス提供、向上に努めている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の際等に、利用者の生活ぶりでの相談や報告を行ったり、事業所の事情(空室状況・取り組み等)の相談、報告の連絡を取り、連携に努めている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、当所の立地条件や利用者の状態から地域や家族からの意見も出ており行っているが今後は開錠も検討する。当所内では日常生活において利用者の安全面等に配慮しながら、自由に生活して頂けるよう支援している		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で職員が利用者の状況把握やケアに対する影響、確認等を話し合いながら、職員各自で認識を持ち、利用者主体の支援を心掛け虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ成年後見を利用される方はいないが、必要な際には、施設長、管理者にて対応。今後活用する場合の対策として、職員が学び理解する事も必要と思われる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所時または、利用料の値上げを行う場合等、その時々でご家族様に口頭や文章にて説明を行い、同意(同意書)を得るようにしている。また、御家族の個別での相談にも応じている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	書面、面会時などで、御家族とは日頃から状態報告や情報交換を行い、利用者主体の支援を行っている。また、運営推進会議などでも意見交換等を行い、運営に反映させるよう努めている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議を行い、職員からの気づきやアイデアまたは、要望や意見を聴くように心掛けているが、個々での不満や苦情に対して把握できていない可能性もある。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	職員の健康診断や、資格取得に向けた支援を行っている。また、職員の健康状態に応じた勤務変更等も行っているが、ストレスの対策としては不十分ともいえる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で開催される研修に、なるべく多くの職員が受講できるようにし、意見の交換やアドバイスをを行いながら、日々のケアや技術向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会主催の研修会に参加し、他事業者との交流を通じて連携を図るよう努めている。また、他事業所とのレクリエーションを行い交流を図り、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で情報収集し生活状態を把握し、本人の不安や要望を理解しようと職員で工夫しながら、安心して生活できる環境、関係づくりに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へこれまでの経緯をお尋ねし、要望や相談等を聞きながら、事業所としてどのような対応を出来るかゆっくりと話し合い、ご家族と事業所との関係を築き、本人への支援へ結びつけるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、必要としている事等は繰り返し確認し、改善に向けて出来る限りの対応に努めている。また、本人、ご家族との信頼関係を築きより良いサービス提供にも努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人を尊重し、時間を共に過ごす事で、信頼関係を築き、本人の思いや不安等を知ることにも努めている。また、お互いが共に支え合い協力して生活が出来る環境づくりを行っている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族からの意向や情報、職員からの状態報告等情報の共有を行い、本人と一緒に支える協力関係に努め、日々の支援に繋げている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院へ行かれています。友人の面会、家族と共に自宅へ行き一日を過ごされる等、一人一人の生活の働きかけを行い、様々な繋がりを大切にすることを支援を行っている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格や状況に応じて、共同での作業、フロアへの誘導等を行い、利用者同士の関係がうまくいくように支援している。また、職員も個別で話を聴く等し、心身の状態や気分、日々の変化を観察することに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	日々の家族との関係をより良いものにし、退所になられても、気軽に遊びに来て頂けるようお話をしている。また、ご家族のより相談などでお電話やお手紙を頂くこともある。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や思いに沿えるよう支援を行い、言葉や動き等も観察、確認している。また、把握が困難な方は、ご家族の意向と協力を尋ね、本人にとって最良の選択を相談し検討している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その時々で家族から情報収集を行い、本人からは回想法等を用いた会話を行う事で、今までの暮らしぶりを把握することに努めている。また、プライバシーにも配慮し、個々を尊重する支援を行う。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	言葉や行動からくみ取る個性や価値観、出来る事等に注目し、その人への理解に繋げる支援を行う。また、一人一人に応じた生活リズムを理解し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で意見交換やカンファレンスを行い、日々の気づきやアイデアを活かし、本人や家族の意向に沿えるよう努める。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別で食事や水分量、排泄等の記録を取り、毎日のケアの実践を行っている。また、職員間でも情報の共有を活かし、本人の一日の状態観察での気づき等を記録に残し、ケアの見直し、実践に繋げるよう努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向や状態にあわせ、外来リハビリの通院の送迎や、家族との外出、外泊など、その時々で対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じ、民生委員や地域包括センターの職員との情報交換を活かし、利用者が地域で安心して暮らせる協力関係を築いている。また、訪問理容は近辺の方を利用している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向に沿って、かかりつけ医への受診介助を行っている。また、家族が同行しての受診もあり、本人の状態により、往診の対応も行われ、その他歯科などの協力医療機関との連携も図っている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃は介護職員により健康管理を行い、医師への相談により助言、対応を行っている。また、訪問看護師に個々の状態を報告、相談し、適切な医療に繋げている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の付添や医師、看護師への情報提供、家族との相談等を行い、安心して治療ができるよう支援を行っている。また、定期的に見舞いに行き、本人の回復状況等情報交換し、早期に退院できる支援に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、書面にも残した上、医師と連携をとり、本人や家族が安心して終末期を迎えられるよう支援に努めている。また、職員全員が常に現状を把握し、最大にできるケアについて確認し、支援に繋げている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルにて職員の認識を高め、対応できるように努めている。夜勤時の急変などには連絡網にて職員を確保し、適切な処置、連絡など素早く確実に対応できるように努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得ての避難、消防訓練を実施している。また、運営推進会議などで、地域への呼びかけや協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時(特に失禁がある際等)や入浴時など人格尊重を行い、個人の気持ちや性格に合わせて、声かけや対応を行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけを行い、希望や訴えがある際は、話を傾聴し、その都度対応し、希望に添えるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人からの訴え時の対応や、お手伝い等の声掛けも利用者の状態や体調に配慮し、個々のペースに合わせて支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	見守りや介助が必要な方には手伝うようにしている。基本的には本人の意向で決められており、その人らしさを保てる支援を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物と一緒にいき、食べたいものを尋ね購入したり、菜園で出来た野菜を採ったり、配膳や後片付けを職員と一緒に行う等し、協力して作業を行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日2回のお茶の時間を設け、個々で水筒を用意し、自室でも飲水されている方もいる。また、食事のメニューは季節の物を取り入れたり、食べやすさを工夫する等し、記録も取っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は見守りを行い、出来ない方は洗面所へ誘導し、本人が出来ないところのお手伝いを行っている。また、義歯の薬剤にての洗浄は職員により支援を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自力排泄が可能な方は見守りを行い、困難な方でも、状態に応じて、誘導やパット交換の支援を行っている。また、個々での排泄記録を記載している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状態を記録に残し、排便の状況を把握している。献立の工夫等も行うが、主治医へ報告、相談により下剤服用の検討、利用もしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は一日おきの入浴日と利用者も認識されており、その日の本人の体調や希望に合わせて、声掛けや見守り、介助を行っている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝、起床時間は個々に応じて違い、本人の希望にて対応している。また、夜間寝付けない時には、昼間の活動を多くしたり、ゆっくりと話をしながら飲み物を提供する等支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルがあり、職員がいつでも確認できるようにしている。また、服薬時は必ず職員が手渡し、確認、記録を取っている。服薬で状態変化がある際は主治医へ報告、指示対応も行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味としてやりたい事、自分からこれやっていると自発的にお手伝いをされる、本人が望む事など、個々に応じた意向を尊重し、職員も感謝の気持ちを持って支援を行うよう努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃の買い物時や本人の希望時に、同行の声かけを行ったり、家族との外出、または、当所でも季節ごとに企画をし、地域行事に参加したり、全員で外出を行う等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現利用者の状態や家族の意向により、当所にて管理を行っているが、数人は少額でも管理できる方がおられ所持されている。買い物で自ら支払いをされる際は、見守りを行っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりはいつでも自由で、利用者の状態や希望に応じて対応を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアには必ず職員がおり、常に見守り、声掛けを行い安心感を与えるよう努めている。空間としては、調理の匂い、テレビ等の音、室温や湿度、季節を感じる花やインテリア等を飾る工夫をし、家庭的な感じの中で生活して頂けるよう支援している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員の目の届く場所にソファがあり、個々でゆっくりと座ってテレビや新聞等を見ながら、職員とも談笑できる空間がある。また、フロアでは食事以外に趣味の塗り絵をされる等出来る。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時より説明を行い、本人や家族の意向でテレビや家具、写真等持参され、それぞれに配置、飾り付けを行われている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや入浴、個々の自室に名前の標示を行い混乱を防ぐ工夫を行っている。また、玄関から全面に手すりの設置、個々の状態に応じ、ベットやタンスの位置を検討、設置の工夫を行っている。		